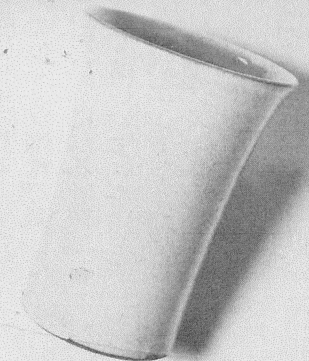


やわらかな白のカップ

龍門司焼の白掛けフリーカップ 直径8・5センチ、高さ12センチ。税抜き3,900円。問い合わせは福岡県朝倉市の工芸店「秋月」(電話0946・25・1270、火曜定休)へ。
外山亮一撮影



春が待ち遠しいですが、まだまだ寒い日が続きます。温かい緑茶の色がきれいに映える白い陶器のカップはいかがでしょう。たっぷり約250ccが入ります。

鹿児島県朝良市でつくられている龍門司焼のカップです。龍門司焼は日用雑器である「黒蓋」の流れをくんでいます。土や化粧土、釉薬など全ての材料を現地で採取しています。特に、焼くと少し黄みが出た優しい色合いになる。土は龍門司焼独特のもので、

しさが際立っています。形も底からシャープに立ち上がりつつ、握りやすい胴、口をつけた時にちょうど良い縁の反りなど、全体のバランスを考えています。つくっているのは30代の陶工、川原竜平さん。大学卒業後、1年間、中国の景德鎮窯で修業を積み、父親の史郎さんが理事長を務める龍門司焼企業組合へ入りました。

父のもとで技術を学んで14年。今では「しゅけ」と呼ばれる蓋物など、昔ながらのものもしっかり作れます。現地で採れる美しい白土や釉薬を大切に、伝統を守っていつてほしいと思います。

そばに置きたい



龍門司焼は白化粧した素地に緑茶の釉薬を掛け流した「三彩」が有名ですが、このカップをあえて装飾をせず、白の美しさを活かしました。その結果、白のやわらかい美

もやい工芸スタッフ
堀沢三香